

ま

な

12月号
vol. 094



特集：都市のインフラ

3

Heart & Soul

特集：都市のインフラ

Heart & Soul

3

ちょっとひと息、いつもの待ち合わせに、友達と勉強で、音楽を聴きに、マスターに会いに。そう、喫茶店は場所として使われてきました。昔は「純喫茶」や「カフェ」などと呼ばれ、今はチェーン店の「カフェ」が主流です。もちろんコーヒーの味やお店の雰囲気もさることながら、お客さんの様子もその時代時代の喫茶店の姿を写し出しているような気がします。わたしも喫茶店やカフェを

使いますが、ちょっと仕事したいな、という

ときはパソコンやスマートフォンで電源が利用できるお店を探したり。これ、チェーン店のカフェなんかで最近のよく見かける光景です。でも、コーヒーの美味しいところや、雰囲気の良いところも、ゆっくり時間を過ごしたくよく行きます。

さて、西成に目を向けてみると実に様々な喫茶店があることに気づきました。今回は、



お母さんにやさしいカフェ「あおぞらアトリエ」、世代を超えて愛される「珈琲屋ナカノ」、そして地域密着でチャレンジを続ける「コーヒーハウスケニア」の店主から、おいしいコーヒーと一緒に話を伺いました。

みなさんの心にも、きっと喫茶店での一面があるのでは。Heart & Soul、最後は一人ひとりの居場所、喫茶店にふらっと出かけます。レポーター…平川隆啓



aozora atelier



1. 明るい店内で、手づくりのスイーツとコーヒーを
2. あおぞらアトリエの篠森弘子さん
3. あおぞらアトリエの名前になった一枚の絵

「あら、こんにちは」。ガラスの明るい戸をくぐると、笑顔の篠森弘子さんが迎えてくれる。テーブルにつくと、温かい白湯がでてきた。「冬なので、あったかいほうがいいでしょ」。そして、ゆっくりとコーヒーを頼む。ここ「あおぞらアトリエ」は、カフェとしてコーヒーや薬膳茶、りんごがたっぷり入ったカレーなど、そのときどきの手づくりを楽しめる。それだけでなく、気軽な教室やワークショップも催される。先日、奇ったときは酵素ジュースを教わりにお母さんが来ていた。近所のお母さんや、おばあちゃんが集まる縁側があったら、こんな感じだなと思えてくる。

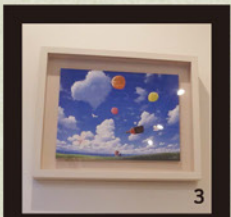
12年5月にオープンし、カフェ、アトリエ、ワークショップのスペースとして、子育て中のお母さんをはじめ、近所の人たちがよく立ち寄る。篠森さんにお店を始めたきっかけを尋ねてみると、「自分の好きなことができるような、そんな空間をつくりたい」という言葉が返ってきた。以前は、商業施設的设计事務所勤め、店舗のデザインなどを担当。気づくと図面を引くのは任せ、お客さんとやりとりしながら企画をカタチにしていこうと力を入れていた。徐々に、人と人をつなげる空間を自分のためにもつくりたいと思い重ね、今の場所カフェをオープンした。

小さく始めたスペースも、口コミで広まり、ワークショップなどでどんどん問い合わせがくる。ここに来ると、いつも何かしらやっていて、必ずと言っていいほど「この人紹介したかったの!」と、篠森

さんがつないでくれる。近所の砥石会社の包丁研ぎワークショップのときや、地域密着型の学習塾の人、近所のお店情報など、行くたびに知り合いが増えていく。最近では、こんな人いませんか?と篠森さんを頼ってしまうことも。「問い合わせがくると、とてもうれしい。あと、人と人をつなげることも。新しいことが始まるでしょ」と、教したり教わったりのちようどいい関係を大切にしているのが伝わってくる。

最近、収納について新たに学んでいる。「収納は、ものが整理できないからではなくて、その人の考え方や感じ方を整理することから」。お客さんとの交流から、いろんな暮らしが見えてくる。そこから「もつとお母さんたちがゆとりをつくれる、機能する家をつくりたい」と篠森さん。暮らしの中から出てきた声を編集しカタチにしていく、近所の人たちの縁側のようなたまり場になっていく。

そんな、あおぞらアトリエは、ちんちん電車の走る阪堺線の沿線、天神ノ森天満宮の近く。心地よいカフェが一軒、まちなか顔となっていた。



3

あおぞらアトリエ

住所：西成区岸里東 1-11-19
電話：06-6653-7800
営業：月～木 9:30-15:00
※土曜日不定期営業



1.気軽に使える広い店内（一部）
2.ケニアの地天敷さん
3.地域が元氣になればとつくった情報発信コーナー

ちんちんちん電車の音が届く北天下茶屋駅近くの「珈琲屋ナカノ」。通りは商店街で、駄菓子や八百屋、本屋に、最近では手づくりピザ屋もでき、ちょっと新しい風も交わる下町の風情である。そんな中、時間を重ねたいい風合いの出た、茶褐色の簡素な看板と入口の喫茶店が、ちゃんと顔をのぞかせる。お店に入ると、奥のカウンターから中野悦枝さんが迎えてくれる。小さなテーブルとカウンターのこじんまりしたお店だ。丁寧に使い込まれた道具が並び、スピーカーからはいつものFMが流れる。ナカノのコーヒーは、濃厚でコクがある。この独特な味は、大阪では丸福珈琲で言わずと知れた味だ。まずは、中野さんにその秘密を伺うことにした。

ナカノは、40年ほど前に、丸福珈琲の兄弟から暖簾分けて店を構える。父、母、姉の3人で始めて、姉の結婚を機に悦枝さんも一緒に働くようになった。今は、悦枝さんがカウンターでじっくりとコーヒーを淹れてくれる。

味も独特なら、コーヒーの淹れ方も独特である。ポットの上にもちようど乗る金属製のドリッパを、おいしいコーヒーが出てくるように、スプーンでカチカチとたたく。「こうやってカチカチ淹れていると、日常の嫌なことも忘れられるし、好きなひとときと、やさしく手を動かす。その音やしぐさにさそわれるように、お客さんがお店を訪れる。

居合わせたお客さんに話を聞いてみる。「よしえちゃんとは、幼馴染み。高校生のころからこ

第一印象は、何と言っても広い。60席以上もあり、お客さんも多い。駅から少し離れた岸里の住宅街に位置する。天神ノ森や阿倍野神社、天下茶屋公園、阪堺線沿線など、周辺には緑も多く、その真ん中を背骨のように通る紀州街道から一本入った場所である。ちょっと郊外のファミリーレストランといった雰囲気すらある。でも、肩書きはコーヒーハウス。なぞは深まるばかりなので、「ケニア」店長の地天（じてん）敷さんにお話を聞いてみた。

今から12年前、カフェブームで大型チェーンが席巻し、地元の喫茶店が厳しさを増していた時期に、地天さんたちは今の場所でチャレンジを始める。ケニアは、コーヒーハウス10数軒を営む大阪地元企業だ。ここ岸里店は、地天さんと、スタッフ8人でお店を切り盛りする。あおぞらアトリエやナカノのように、個人・家族経営ではなく、会社としての強みを活かし、地天さんらチームワーク、そして地元とのネットワークで立ち向かうチャレンジは、いろんなアイデアにあふれる。

例えば看板メニューのケーキにもこだわりがある。「地域の高齢の方も気軽に楽しめるよう、昔ながらのケーキを選んでお出ししています」。手づくりケーキのお店で仕入れたもので、おしゃれ過ぎず、でも安っぽくない気軽に楽しめる味が評判だ。食事も徐々に充実させ、土日のモーニングは、60席が埋まるほど家族連れが来るようになった。「できるだけ幅広い年代に受け入れられるようなお店づくりをしています」という。そんな地域に広く親しまれているお店なんだと感

珈琲屋ナカノ
住所：西成区天下茶屋 2-5-15
営業：12:30～22:30
※モーニング営業はなし

に来ていたね」と応えてくれたのは、近所で写真店を営んでいた谷さん。コーヒーとおスメのチーズトーストを楽しみに、ナカノに通ってる。谷さんは父に連れてきてもらったからの常連で、祖父も来ていた。

「マスターのお父さんはチョコッキをピシッと着こなす紳士だったね。お母さんはとにかくきれいな大阪弁で、素敵なお人」と懐かしむ。谷さんの写真店は父の代で閉じ、住まいも天下茶屋から離れたしまったが、こうやってときどき足が向く。「ナカノも天下茶屋も、昔ながらのものを大切に重んじる、まさに庶民のまぢだね」。こうやって落ち着く場所があることに、ほっとした。

悦枝さん自身の、喫茶店の思い出はというと、「ここで働いていたからあまりないかも。でも、友人に連れていってもらったクラシックやジャズ喫茶、タンゴ喫茶などかな。いいスピーカーで音楽を聴きに、ちょっと大人になった気分で喫茶店を選ぶ。そんな庶民感覚と背伸びした感覚が入り混じる空間が、今のナカノにも漂っている。世代を超えて愛される喫茶店には、時間の流れをどこからでも受け止めてくれる優しさがあつた。

コーヒーハウスケニア
住所：西成区岸里東 2-11-9
電話：06-6653-4155
営業：8:00-22:00
定休日なし

じるエピソードをいくつか。

よく、高校生が期末試験前などに勉強にここへ来る。そんなとき、時間が遅くなると親からケニアに電話がかかってくるという。「うちの子、そろそろ帰るように言うという、と頼まれるんです」。地天さんが笑顔で「ぼろぼろ帰る時間やで」と高校生に声をかけている姿が目につく。親も、どこだか分からないファミレスより安心なのだろう。

アルバイトはみんな長期間ケニアで働くお店の顔だ。「お客さんとのコミュニケーションを大切にしたいから、ころころ入れ替わるような職場にしたくない」「私も時間さえあれば、お客さんとおしゃべりばかりしています」。地域では、高齢化がますます進み、孤立していく人も多い。「見て見ぬふりでなく、どんな時でも『今、何やってるん』『また行くか』とあたたかく声のかけ合える関係をお店を通じてつくりたい」と、地天さんは地域に目を向ける。

実は地天さん、前職はファミリーレストランで働いていた。そこでマニアル通りの働き方に疑問を持ち、いまケニアで奮闘している。地域でがんばる喫茶店の新しい姿を見つけた。



1.ゆっくり過ごせる落ち着いた雰囲気の店内
2.ナカノの中野悦枝さん
3.おいしいコーヒーづくりのためのカウンター



サウスオブミナミ

vol.17

☕ 喫茶店のある風景
 特集に引き続き、まちではったりと出会った喫茶店を写真に収めてみました。まちに溶け込む趣きも想像以上に色とりどり。小屋のような意匠や、凝った看板や入口、壁面のデザインなどじっくり見ると、こだわりが伝わってきます。屋号も、地名やコーヒーをイメージしたもの、語呂合わせなど、実に多様。そんな雰囲気を楽しみながら、コーヒーを一杯いかがですか。

1 紫苑
 小屋のようなデザインは、なぜか純喫茶という雰囲気としっかり表現したような趣。



2 白山
 たぶん、石川の白山か。出身地や思い出の地がお店の名前になることも多い!?



3 LEAF2
 スクエアの看板や、軒先はなんとなくモダンなデザイン。カッコよさも漂う喫茶店。



4 non
 木とレンガのやさしさが目を引く一軒。そばにはローカル線汐見橋線も。



5 十雷
 tryと、十雷(とらい)の語呂合わせ? おいしいそうなコーヒーの香りが漂います。



6 KADO
 街角で発見! 花びらがまったよう模様の壁面は、手づくり温もりが伝わってきます。



7 バード
 シンプルな正面の店舗。いままも公衆電話が2台あり、昔から待ち合わせの場所だった?



8 秋山
 焙煎室が入口側から見ることもできる珈琲店。こだわりと自信が伝わってきます。



9 ナカノ
 温かい雰囲気、おいしいコーヒー、ほっとスポット。特集4ページ掲載。



10 ルンバ
 北天下茶屋駅のホームから入られるおしゃれな喫茶店。ちんちん電車の音を聞きながら。



11 香寿美
 ぶどうをあしらったような、かわいらしい軒テントのフレームは、チャームポイント!



12 あおぞらアトリエ
 明るい笑顔と楽しいチャレンジが集まる緑側のカフェ。特集3ページに掲載。



13 ケニア
 地域密着、会話ははずむまちなかのオアシス。特集5ページに掲載。




「なび」をつくる(株)ナイスは、地域での取り組みも、社会に向けた取り組みもいろいろ。多様につながる実践を紹介していきます。

ナイスな仲間たち

VOL.09 ぐらん・じゅ in ビッグ・アイ



就労支援プロジェクトがはじまりました。

国際障害者交流センター「ビッグ・アイ」では、宿泊・飲食サービス業における障がい者の職域拡大を目指して、CAFÉ & DINING『ぐらん・じゅ』を中核に、職場体験プログラムを提供しています。7月のスタート以来、大学や高校、支援学校、福祉事業所、就労支援機関などから大きな反響をいただいています。

ビッグ・アイは全国の障がい者の「完全参加と平等」の実現を図るシンボルの施設として、全国屈指のバリアフリー仕様の研修室や宿泊施設、レストランがあります。ハードの質の高さだけにとどまらず、ソフト面の取り組みとして、障がい者の方が

サービスの受け手となるばかりでなく、担い手としても活躍いただける可能性をこのプロジェクトでは追求しています。

実際のお客様への接客業務等を通じて、参加した体験者からも「最初はどこまでやれるか不安でした。お客さまに『ありがとう』と言ってもらい、自信になりました」といった声もいただいています。みなさんも『ぐらん・じゅ』にお越しいただき、インクルーシブな職場を体感してください。

飯島秀司

CAFÉ&DINING『ぐらん・じゅ』
〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1(ビッグ・アイ内)
TEL: 072-290-0917
FAX: 072-290-0920
HP: <http://www.big-i.jp/>



産経新聞の記事

い湯かげん

実り多かった生活困窮者全国大会

11月上旬、西宮市で開かれた「生活困窮者自立支援全国研究交流大会」に参加したが、その感想を記したい。

生活困窮者自立支援法の肝は、「誰もが」生活困窮者になるかもしれないリスクを抱えた社会に、官民協働の「新しい」セーフティネットを創るということにある。「何故」そんな社会になったかという、血縁、地縁、職縁、知縁(社会運動等)の包摂力が著しく低下してしまっただけからだ。ボクが、部落解放運動や労働運動等社会運動も「自己革新」することで、新しいセーフティネットを構成す

ることができると言い続けているのも、こうした現状認識にもとづいている。残念ながらこうした伝統ある社会運動からの参加者は少なかったが、浅香と北芝の若者が太鼓で会を盛り上げてくれたことは救いだっただけでなく、

「どうやって」創り直すのかという、顔の見える範囲のコミュニティからポトムアップするということ、この法は従来のトップダウンとは違うから、厚労省の熊木正人自立支援室長や宮本太郎中央大教授等が現場に足しげく通った。その結果が1000人を超える交流大会の

盛況となったのだろう。「どんな」法になったかという、六事業に収斂されたが、村木厚子厚労省事務次官が「現場の知恵を拾った六事業であって、三年後の法の見直し時にはもつと提案をください」と語りかけたように、「ing」の法である。

「だれが」キャスティングボードを握っているかという、一番は基礎自治体である。奥田知志NPO抱僕理事長は、「法が経済的困窮と狭く規定してしまっただと指摘し、家計支援等小さな自治体では非効率な事業もあり、自治体間連携を促進する都道府県の役割を強調された。豊中市の西岡正次さんは、「自治体も就労支援の扉を開け始めたが、企業(産業)支援の扉も叩くことが大切だ」と語り、「雇用産業」を興せるチャンスだと指摘されたが、大いに共感した。

「意味深」だったのは、大森東大名誉教授と宮本教授の二人の政治学者が問答した「クール・

ヘッド」という言葉で、社会が直面している困難、それと立ち向かう躍動が混在する現場に立ち会って、政治と生活のミスマッチを冷静に解いていく政治の役割を言い当てておられたが、交流大会ではまだ消化不良で、今後の議論が期待される。

(株)ナイスの竹中君が、「自立支援と住まい」分科会で活動報告を行ったが、抑制の効いた良い報告だった。「地域を創る」というのは、生活困窮者自立支援法の戦略的テーマで、奥田さんがよく言われる「ハウスではなくホームを創る」実践が始まったと、(株)ナイスの役割を再確認した。



株ナイス代表取締役 富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。



[田岡秀朋] 先日はりきって、DIYで本棚づくりにチャレンジしました。材料費を考えると既製品を買ったほうが・・・の声も。いやいや、つくる楽しさが勝るはず。



[近藤彩] 今年ももう終わってしまいますね。来年はもう少し引きこもりを改善して外に出て行けるといいなあと思っています。現状は週に2日ほど家から300mも離れば、よくやったレベルです。



[平川隆啓] 特集をきっかけに、今まで以上にコーヒーを飲む機会が増えました。喫茶店は好きなので、近隣のお店を制覇してみたい。さて、年内にどこまでいけるか。



[飯田沙保里] 寒くて今冬2回目の風邪をひいてしまいました…今回は早めの対策(葛根湯+風邪薬)で数日で回復!

今月の花：
ポインセチア

花言葉「祝福する」

「私の心は燃えている」

日本名は、猩々木(しょうじょうぼく)で中国の伝説の動物「猩々」顔が赤くて酒を飲む、さるに似た動物に見立てられました。クリスマスとは関係ないぞうです。

もう年末ですね、今年もあとわずか。この時期になるとこの町を出て行った人を出します。寒くないかなとか、ご飯ちゃんと食べてるかなとか、病氣してないかなとかいろいろ心配になります。残っている人は、もうどこへも行かないでください。さみしくなります。

(なんばひとみ)



ピースのつぎやき



「カレンダーのあなた」

12枚つづりのあなたも最後の1枚になりました。

初めて会った時は

貫禄があったのに

今は痩せてしまいましたね。

そんなあなたに向かつて

鼻息をかけてしまつて

ごめんなさい。

あなたはお別れが寂しいのか

揺れていましたね。

でも、あなたのおかげで

毎日が迷わず過ごせました。

あなたのおかげで

大切な記念日も

忘れる事はありませんでした。

あなたは1日も休む事なく

働いてくれました。

感謝の気持ちでいっぱいです。

来年もまた貫禄をつけて

私に会いに来てくださいね。

本当にありがとうワンワン!!

赤井まゆみ

ピースの育ての母の赤井まゆみです。ピースがお喋りしたい事や思っている事を、これからもたくさん感じ取って、みなさんにお伝えしたいと思っています。



枝葉末節

「オブジェ1」



hidarmakiです。
今なお続く沖縄処分を詠む。
傍観という
卑怯いくたび
また師走

「本物とニセ物というのは一つの調和した物の状態、均衡を持った物の状態であり、片方だけでは存在出来ないものであります。ニセ物というものは本物がなくては出来ないものであり、本物は又ニセ物がある為に、或はニセ物出現の可能性がある為に、単なる物ではなく「本物」であるという主張をするのです。つまり本物というのは、数ある物の中で自己が本物である事を主張し強制する独裁体制の事なのであって、常にその体制を維持し、保守するという守勢にまわり、それに対しニセ物は、常にその本物の独裁体制を脅かす攻撃的な性質を持っているのであります」。

10月26日に赤瀬川原平が亡くなった。若いころ美術を志した者たちにとって、その知らせを特別な気持ち

で受け止めた人たちも多かったと思う。岐阜県養老町に建設した「養老天命反転地」の作家荒川修作も数年前に逝き、日本の美術や後続部隊に影響を与えた前衛たちが次々と鬼籍に入っていく。私は、赤瀬川の訃報を聞き、本棚の奥底から彼の著書を探し出して再読してみた。巻頭の1節は、現代思潮社が70年に出版した赤瀬川のエッセイ「オブジェを持った無産者(写真)」に収められた中の、裁判での意見陳述の一部だ。裁判とは「千円札裁判」のことであり、赤瀬川がニセ札を偽造して、被告となった裁判のことである。

赤瀬川は、ネオ・ダダ派といわれ、「ハイ・レッド・センター」を立ち上げ、白衣を着て「首都圏清掃整理促進運動」などのハプニングスを行った。ハイ・レッド・センターとは、芸術を標榜する若手美術家の高松次郎、赤瀬川原平、中西夏之それぞれがインシヤルを取って名付けられた美術集団の名称だ。そして、その後「千円札裁判」事件が起きた。裁判が起きたというより、権力が芸術を裁いたというほうがわかりやすい。一色で千円札を微細に模写し、しかし裏面は真っ白ないわば千円札の模型を制作し印刷した。もちろん外部に出回ったわけではなく千円札を作品化、つまりオブジェとしたのである。

64年のある朝、自称前衛派の若い画家赤瀬川原平(27)が「チ37号」事件につながる千円札模造犯人として、朝日新聞三面記事のトップに掲載されていた。それを当人が見てあつげに取られて驚いたという場景が同著に記されている。千円札の模造をネタに、新聞社自らが「チ37号」事件を起こした赤瀬川という人物のニュースを模造し、ニセ千円札偽造にも劣らないニュースの偽造は、大量の新聞紙に印刷され誤解され好奇心を持って眺められたと書いたうえで、「つまり朝日新聞は、芸術における「イミテーション・アート」ニセ物芸術という新しい方法を、新聞の報道に導入し、新聞界における「自称超前衛派」として躍り出たのだ。私は朝日新聞が、どこまでこの「ニュースの偽造」という新しい仕事を続けられるかを心配した。(中略)このニュースの偽造という仕事を、勇気をもって続けてほしい」。赤瀬川は、このように同著の「資本主義リアリズム論」という項で、ユーモアと皮肉を用い、怒りをこめて朝日を揶揄している。

45年以上も前に朝日新聞は、若き美術家を奈落に落とし込もうとしていた、という事実を、当時の書籍を再読して改めて知り、ほんの最近耳目を集めた報道疑惑について少し横道に逸れてみたい。



朝日新聞社は「慰安婦問題」や東京電力の「吉田調書問題」で方々から叩かれ、捏造新聞社として悪名高いが、その頃の私たちはすでに「ブル新」などと言って、マスコミをあざ笑い、情報の隠蔽やゆがめられた記事の捏造などは、どこの新聞社や週刊誌、TVでも日常茶飯事にやっていると先輩たちに入れ知恵されていた。実際私にもそんな経験を持つ。しかし、美術家赤瀬川個人に、冤罪とも取られる記事を朝日が堂々と、かの輝かしき70年を直前に報じたことは記憶になかった。

当時、前衛美術の事情を知る人々たちを除き一般的にほとんど無名であった赤瀬川は、すでに現在の朝日の行く末を、この時予知していたと言える発言である。朝日の行状は、先輩たちが言ったように今に始まった事ではなかった。

さて、「千円札裁判」の話だが字数が尽きた。次号で彼の著書「オブジェを持った無産者」をテキストにして考えてみたいと思う。

hidarmaki

思いだったら！ にしなりカレンダー

「子どもの一歩を応援」編

遊びでチャレンジ

けん玉入門教室@市民交流センターにしなり

今や海外でもブームとなっている「けん玉」。級、段の認定も丁寧に指導してもらえる全2回の入門教室で、けん玉を習い世界に挑戦！?

日時：2015年1月11日(土)・18日(土) 14:00-15:30

参加：無料

対象：子ども(小・中学生)～大人(高校生以上)

定員：子ども15名、大人10名(先着順)

問合：大阪府立市民交流センターにしなり
(西成区長橋2-5-33)

TEL：06-6561-0007

FAX：06-6561-9154

一人ひとりの居場所から

マナビバ@市民交流センターにしなり210号室

おしゃべりや悩み相談、ボードゲーム、パソコンやタブレット、学習に関するサポートや就職サポートなど、高校中退者のためのフリースペースが西成にOPEN!開いている日は、いつでも立ち寄れて、自由に過ごせます。

日時：毎週火・木曜日 10:00-16:00

対象：高校中退者 ※不登校の生徒さんや中卒後進路未決定の方でも大丈夫です

場所：大阪府立市民交流センターにしなり210号室
(西成区長橋2-5-33)

問合：一般社団法人ヒューマンライツ教育財団(担当：竹本)

TEL：06-6568-1840

MAIL：info2@human-ref.jp

親子でアートとお店めぐり

「糸の妄想」～しましまい@あしたの箱

恐竜、植物、骨格などを素材に編み込んだオブジェ約30点を展示。親子でも楽しめるアート展。

日時：12月13日(土)～21日(日) 13:00-19:00

※水曜休廊、最終日17:00まで

問合：ギャラリーあしたの箱(西成区岸里東1-6-7)

TEL：06-6659-8892

WEB：<http://ashitanohako.com/hako/>

同時開催

「オープニング・パフォーマンス&パーティ」

日時：12月13日(土) 17時-

「スタンプラリー」

会期中ご近所のカフェ「あおぞらアトリエ」さん、絵本と雑貨「uni-neu」さんと一緒に、クリスマス・スタンプラリーを開催。

一緒に食べる楽しさ

こども食堂@市民交流センターにしなり

みんなで料理をして、一緒にいただきます。「わたし、この玉ねぎを切った」「人参ってこうやって切るんや」「おいしい、おかわり」などなど、一緒に食事をする事で、子どもたちの笑顔が飛び交う楽しいひととき。子ども集まれ～!

日時：12月26日(金)・2015年1月5日(月)

7日(水) 11:00-12:00

参加：無料

対象：だれでもOK

問合：大阪府立市民交流センターにしなり
(西成区長橋2-5-33)

TEL：06-6561-0007(担当：川辺)

FAX：06-6561-9154

あとがき

ここ最近、札幌、釧路、盛岡、仙台、東京、埼玉、名古屋、徳島と出張ウィークが続いています。各地の美味しいものを食べたり、温泉に寄り道したりと楽しめる反面、移動の疲れが出てくる頃合い。それはそうと、何度も行ってる場所だとお土産を買う事もなくなりました。この現象に名前をつけてみたいと思っています。

(四井)

なび12月号(vol.94)

発行日：2014年12月10日(創刊日：2007年1月1日)

発行人：株式会社ナイス

印刷：有限会社前山企広

住所：大阪府西成区長橋3-6-33 電話：06-6563-1156

E-mail：info@nice.ne.jp

url：<http://www.nice.ne.jp/>

編集長：佐々木敏明

編集：田岡秀朋、平川隆啓、四井恵介、飯田沙保里

イラスト：hidarimaki

デザイン：近藤彩、高橋静香

表紙の写真：「野点+いまみや妄想ひろば」で自作のお茶碗づくり
今宮小学校鶴見橋商店街で撮影

